

はい、皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか？先月の始めに坂井先生からご連絡を頂きまして、なんと坂井先生が開発から加わって完成した皆さんで存じの富士通の携帯電話用ソフトがドイツの Universal design award 2011 を受賞したそうです！！国際的な賞なようで、さすが坂井先生！！世界の坂井！大阪弁で言うと「世界の坂井やさかい！」2010年10月から無償で公開され、その後4ヶ月間で2万回ダウンロードされた様です。素晴らしい！！どうもおめでとうございます。世界の坂井やからって、僕たちを見捨てないで下さいね☆今後とも宜しくお願いします！さて、今回は前回の『符号にすることと符号を解釈すること』のつづき「2）どう対応していけばよいのか」から始まります。前回は「コミュニケーションとは送り手がいて受け手がいる。それではじめて《コミュニケーション》になる。」という話と、「発達障がいを持つ子どもの場合・・・」の話をさせていただきましたが、今回はその答え合わせ、一番気になる部分ともなる「どう対応していけばよいのか」からお話しして頂きます。

コミュニケーションって簡単そうでとっても複雑なものですねぇ・・・

僕は、はたしてみんなとコミュニケーション出来てるのかなぁ？(^_^;)頑張りますっ！！

久田

第32回『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

2) どう対応していけばよいのか (前回からの続き)

以前に経験した状況で繰り返し言われていたことばを、特定の状況と結びつけて言う子どもの場合は、その場で適切なことばに言い直しをして伝える練習をする必要があります。

その時に使うべき適切なことばを文字にして示し、その状況になったときに、それを読むように指導します。その度にそれを読むように促し、適切なことばを言う練習を繰り返すようにするのです。

こちらからのメッセージを字義通りとることが多い子どもの場合には、「屁理屈ばかり言うのではなくて、もっと素直になりなさい」と考えて対応するのではなくて、そのことばのもつ意味をわかるように伝えていくことが大切です。

「いつでもどうぞ」などの社交辞令の場合は、「訪ねようと思う前日には、相手の予定を聞きましょう」などと、その時の対応の仕方について、具体的に教えていくことも大切です。

冗談なども同様で、その一言が子どもを傷つけていることになっていないかどうか、よく見ておく必要もあります。言われたことを字義通りにとるタイプの子どもの場合には、そのような配慮をしていくことが大切なのです。これらに配慮したやりとりの練習は、状況の応じた振る舞い方を学ぶのに似ています。

そして、効果は必ず現れます。「このように伝えたらうまく伝わるのに」、「このように理解したら、もっと道が開けるのに」と考えて提案し続けることが大切です。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション (やまびこの里) クラスルームコミュニケーション (こころリース出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア (エンバフメント研究所) など